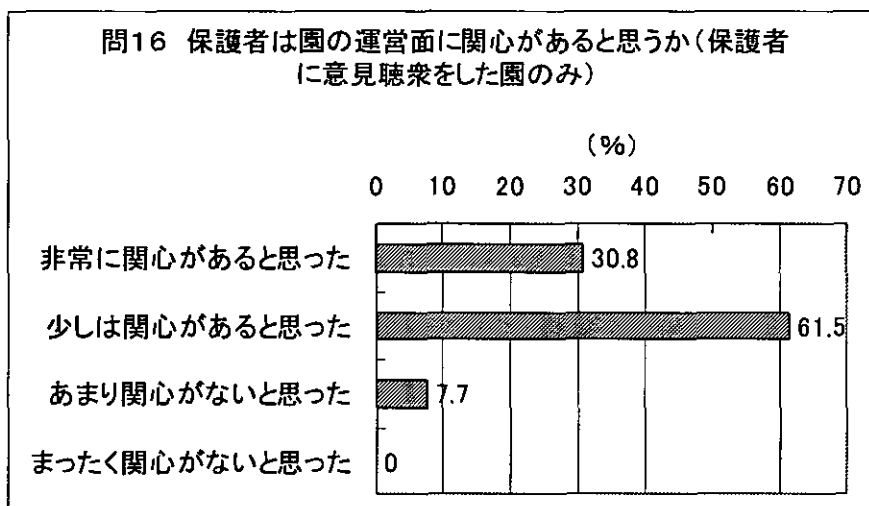
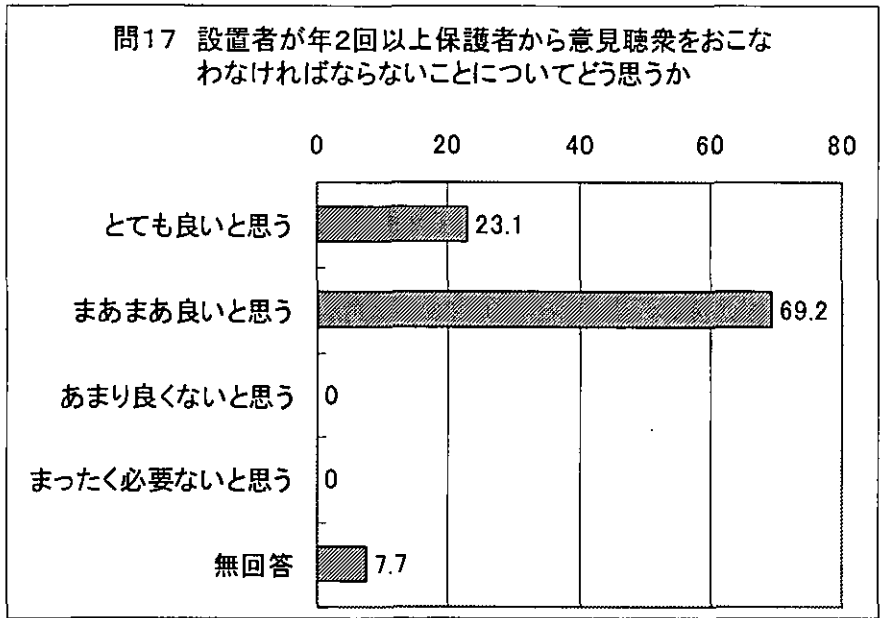


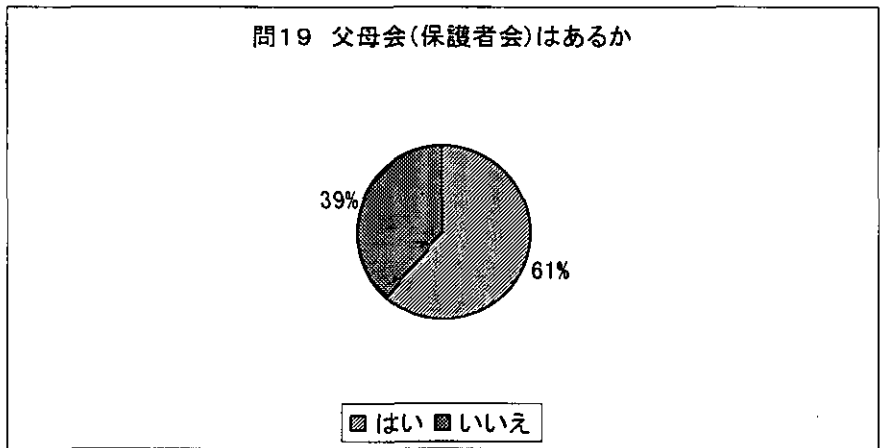
保育指針は実際の保育に役立っているかどうかについてたずねたところ、「とても役に立っている」が46.2%、「少しは役に立っている」が53.8%で保育指針が役に立たないと思う園はなかった。



保護者に意見聴衆した園を対象に保護者は園の運営面に興味があると思ったかどうかについてたずねたところ、「少しは興味があると思った」が61.5%、「非常に興味があると思った」が30.8%で、保護者は保育園から示される運営に関する情報に関心があることがわかった。

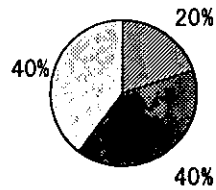


設置者が年2回以上保護者から意見聴衆を行わなければならないことについてどう思うかについてたずねたところ、「まあまあ良いと思う」が69.2%、「とても良いと思う」が23.1%となっており、肯定的に考えている園が多かった。



父母会(保護者会)があるかという質問には、「はい」が61%で父母会がある園がない園(39%)より2倍近く多かった。

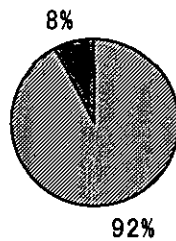
問19-1 父母会(保護者会)の立ち上げ予定はあるか(問19  
で「いいえ」と答えた園のみ)



■ ある ■ ない □ わからない

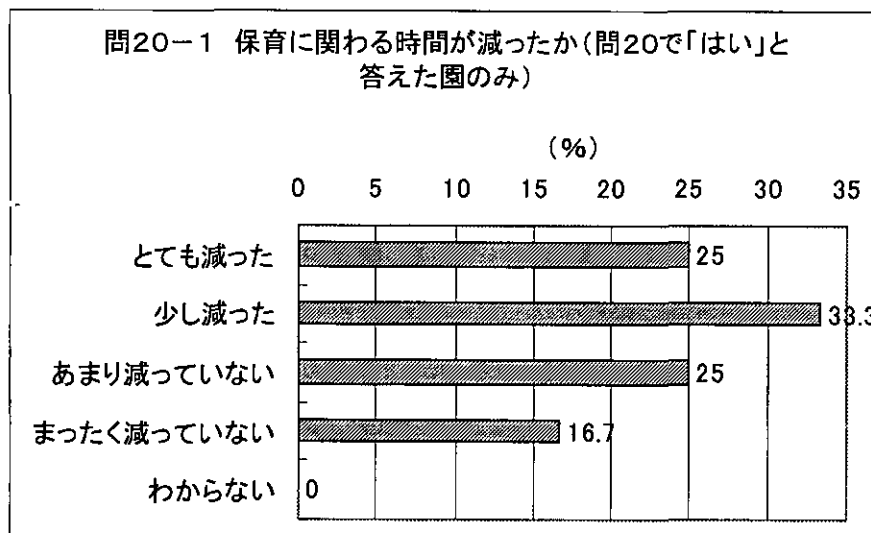
父母会(保護者会)がない園に今後父母会(保護者会)の立ち上げ予定はあるかどうかについてたずねたところ、「ある」が20%、「ない」が40%、「わからない」が40%で、現在父母会(保護者会)がない園のなかで今後立ち上げの予定がある園は20%しかなかった。

問20 市に提出する書類を書いている人はほぼ毎日保育  
に関わっている人か

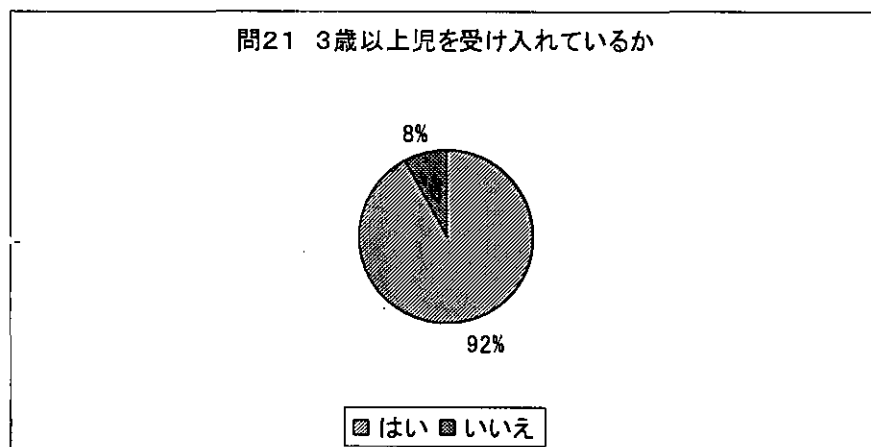


■ はい ■ いいえ

市に提出する書類を書いている人はほぼ毎日保育に関わっている人かどうかについてたずねたところ、「はい」が92%で、毎日保育に関わりながら提出書類を書いている園が多いことがわかった。

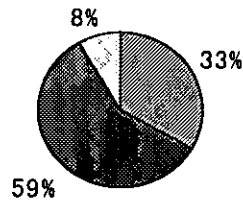


ほぼ毎日保育に関わりながら提出書類を書いていると答えた園に保育に関わる時間が減ったかどうかについてたずねたところ、「少し減った」が 33.3%、「とても減った」「あまり減っていない」がいずれも 25%だった。



3歳以上児を受け入れているかどうかについては、「はい」が 92%で受け入れている園がほとんどだった。

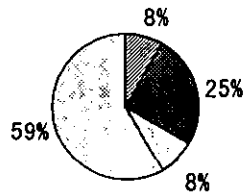
問20-1 3歳以上児の在園が負担になると考えたことがあるか



■ はい ■ いいえ □ わからない

3歳以上児を受け入れている園を対象に3歳以上児の在園が負担になると考えたことがあるかという質問には、33%の園が負担を感じており、負担に感じていない園が59%、わからないが8%となっていた。

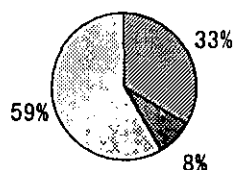
問21-2 3歳未満児の枠を一層増やしたいか(問21で「はい」と答えた園のみ)



■ はい ■ いいえ □ わからない □ 無回答

同じく3歳以上児を受け入れている園を対象に、今後助成額や保育料が高い3歳未満児の枠を一層増やしたいかとたずねたところ、「はい」が8%、「いいえ」が25%、「わからない」が8%、「無回答」が59%となっていた。

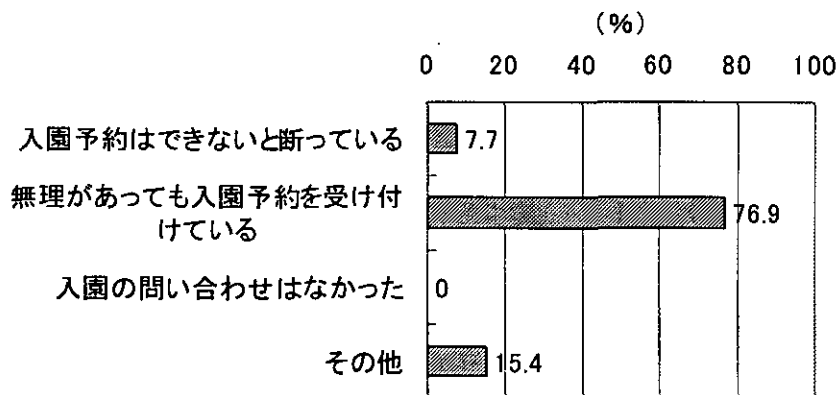
問21-3 今後3歳未満児までに限定して受け入れることについて考えているか(問21で「はい」と答えた園のみ)



■いいえ ■わからない □無回答

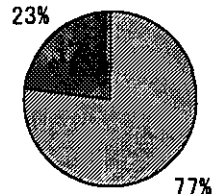
今後3歳未満児までに限定して受け入れることについて考えているかどうかについても「無回答」が59%で一番多いので今後の受け入れ児童の枠組みの方向について明らかにすることはできなかった。

問22 第1子を預けている親が産休・育休後に第2子の入園を希望し予約する場合



第一子を預けている親が産休・育休後に第2子の入園を希望し予約する場合どのようにしているかについては、「無理があっても入園予約を受け付けている」が76.9%でもっとも高かった。

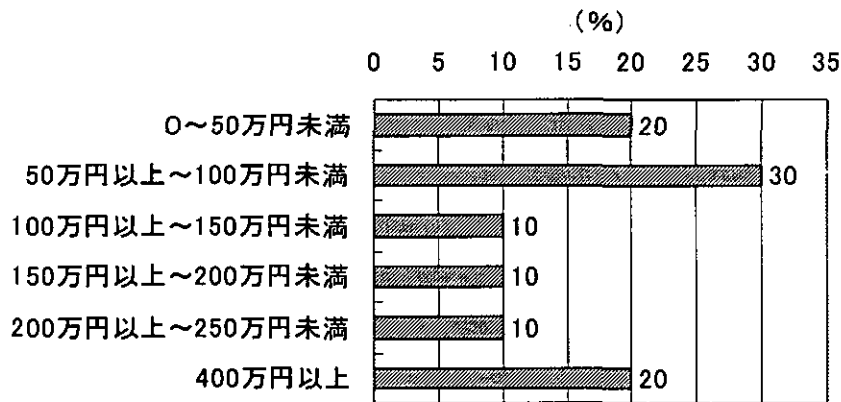
問23 せんだい保育室への移行に伴い施設の改修を行ったか



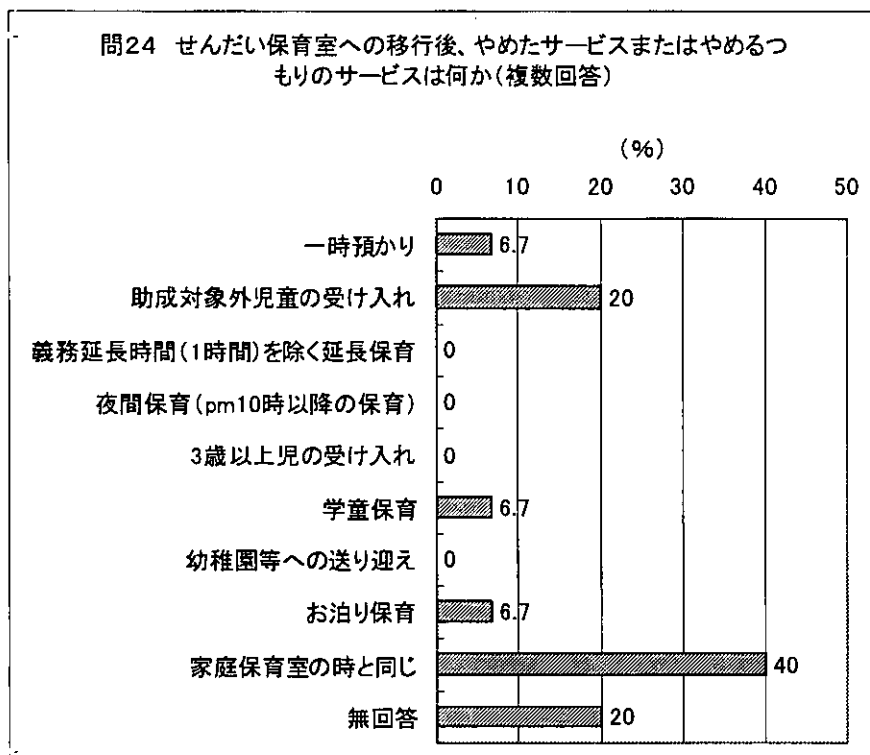
■ はい ■ いいえ

せんだい保育室への移行に伴い施設の改修を行ったかとたずねたところ、「はい」が77%で80%近くの園が改修を行っていた。

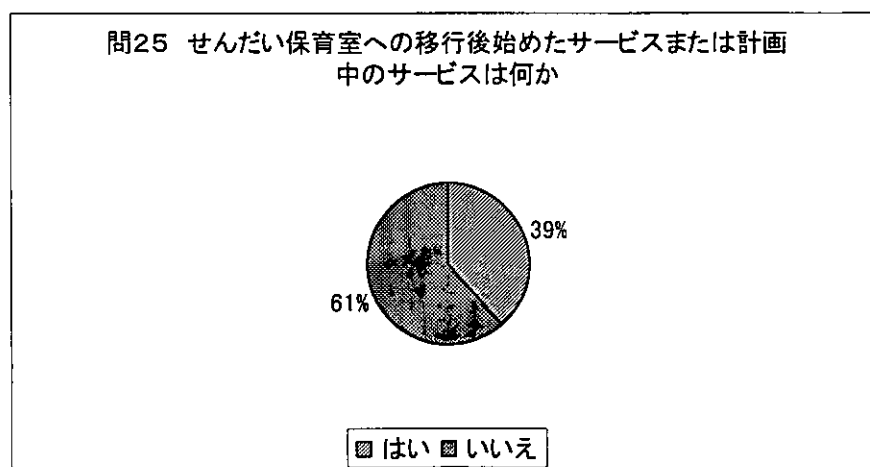
問23-1 改修費はどれくらいかかったか(改修した園のみ)



改修した園を対象に改修費について質問したところ、50万円以上～100万円未満が30%でもっとも多かった。



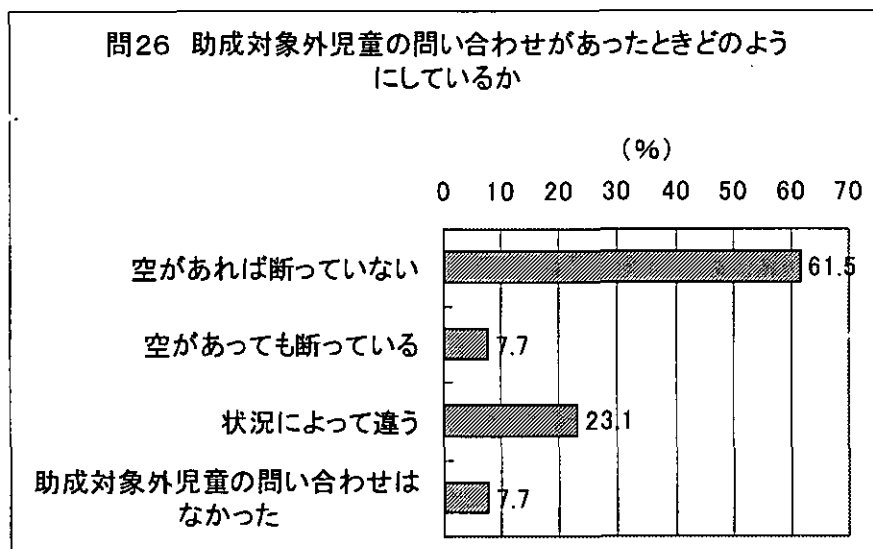
せんだい保育室への移行後、やめたサービスまたは辞めるつもり  
のサービスは何かについてたずねたところ、「家庭保育室の時と同じ」だと答えた園が40%で一番多く、次が「助成対象外児童の受け入れ」(20%)となっており、せんだい保育室への移行後も家庭保育室のときと同じサービスを提供している園が多いものの、一時預かり、学童保育、助成対象外児童の受け入れ、学童保育など多様なサービスを行ってきた園が、そのサービスをやめたという実態がわかった。



せんだい保育室への移行後始めたサービスまたは計画  
中のサービスは何かについての質問には「はい」が39%で「いいえ」が61%となっているが、始めたサービスの例としては延長保育

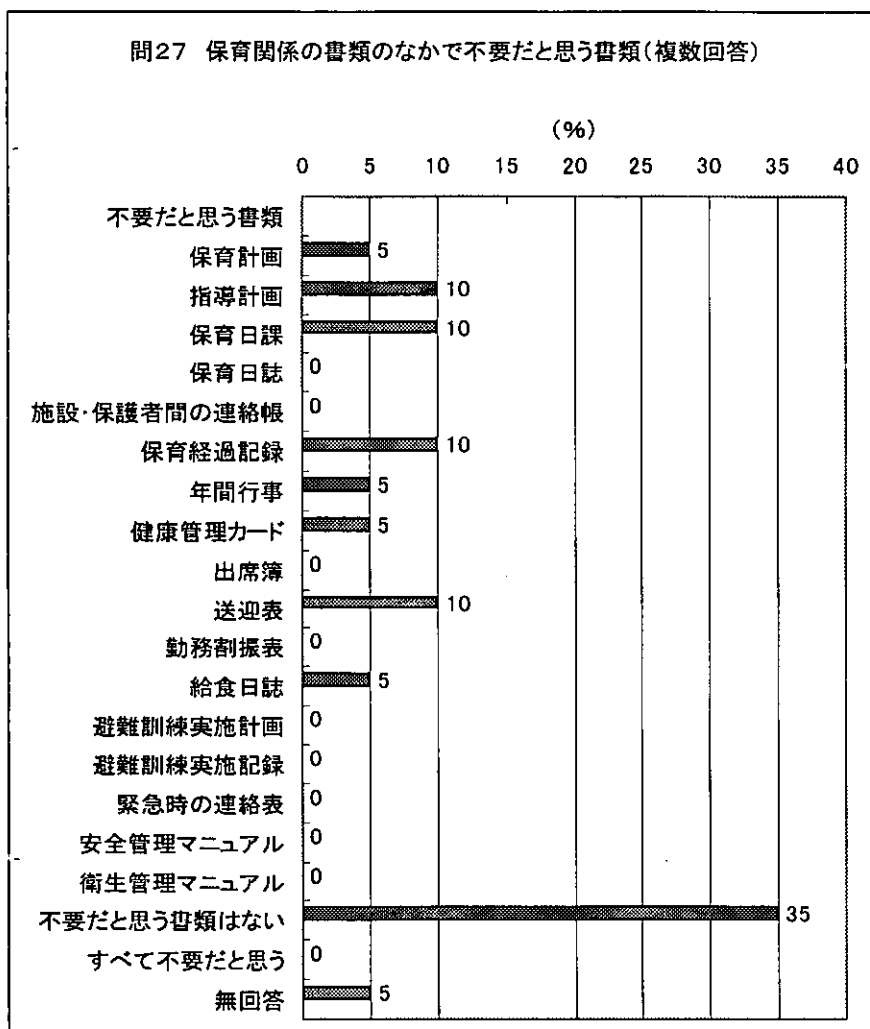


時間の延長，完全給食等があった。

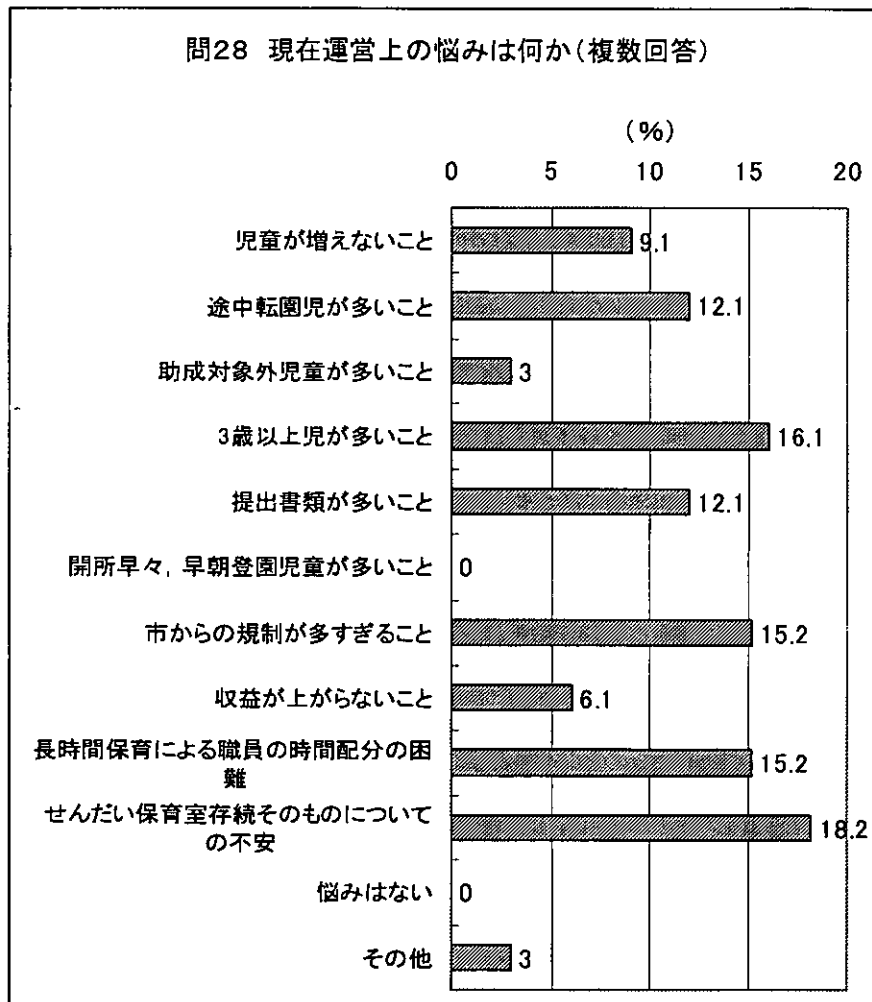


助成対象外児童の問い合わせがあったときどのように対応しているかについてたずねた質問には、「空があれば断っていない」が 61.5%で助成対象外児童は多くの園で受け入れられていることがわかった。一方，受け入れは「状況によって違う」(23.1%)，「空があっても断っている」(7.7%) と答えた園は合わせて 30%を越えていた。

### III せんだい保育室制度が改善されるべき点

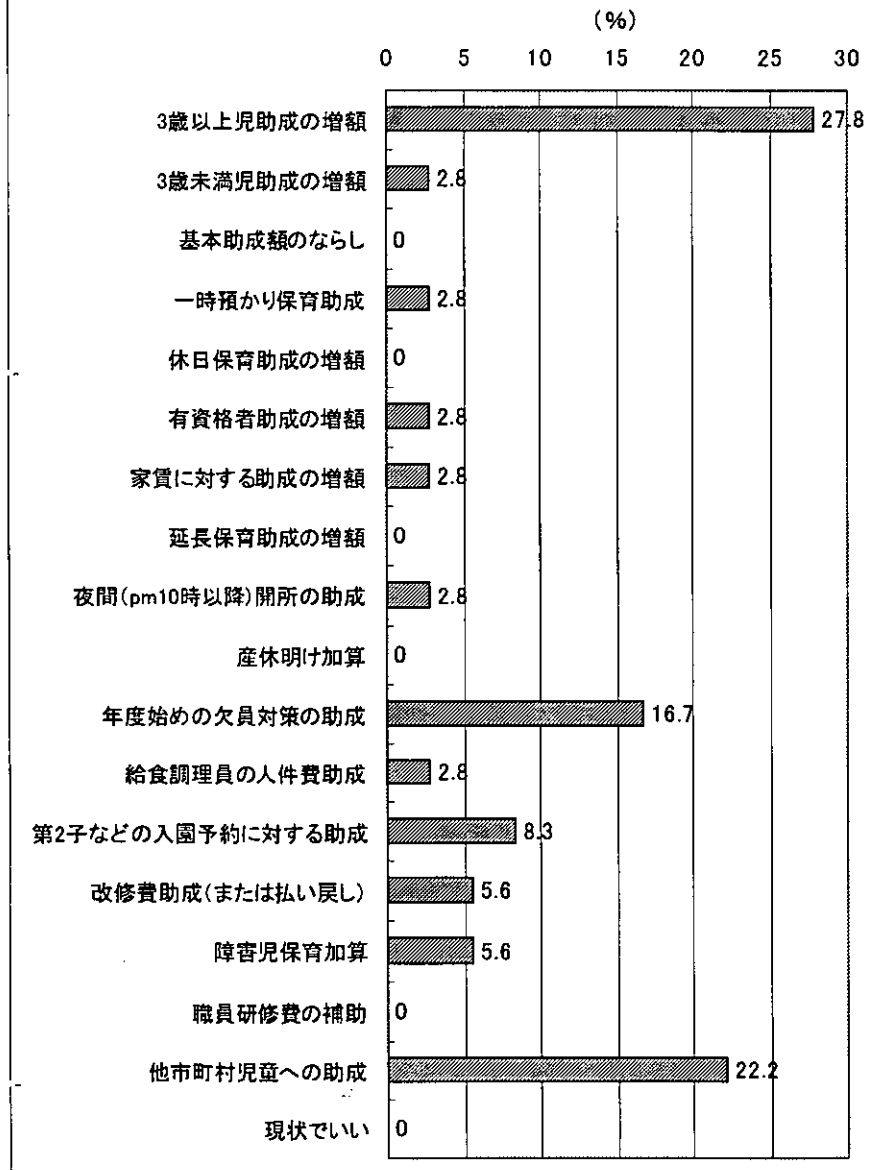


保育関係の書類のなかで不要だと思う書類は何かについての質問には、「不要だと思う書類はない」が35%でもっとも多く、「指導計画」「保育日課」「保育経過記録」がいずれも10%で2番目になっている。

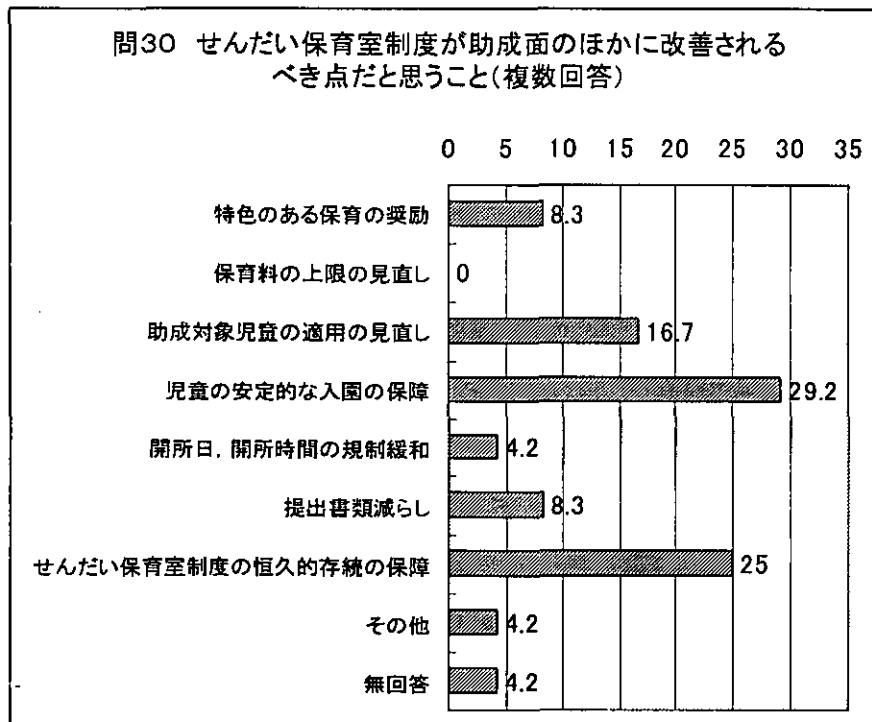


現在運営上の悩みは何かについてたずねたところ、「せんだい保育室存続そのものについての不安」が18.2%で一番高く、「3歳以上児が多いこと」(16.1%)、「市からの規制が多すぎる」(15.2%)「長時間保育による職員の時間配分の困難」(15.2%)の順になっており、今後のせんだい保育室の存続について不安に思う園が多いこと、保育料の安い3歳以上児が運営上の悩みとなっていることがわかった。

問29 せんだい保育室制度が助成面で改善されるべき点だと思うことは何か(複数回答)

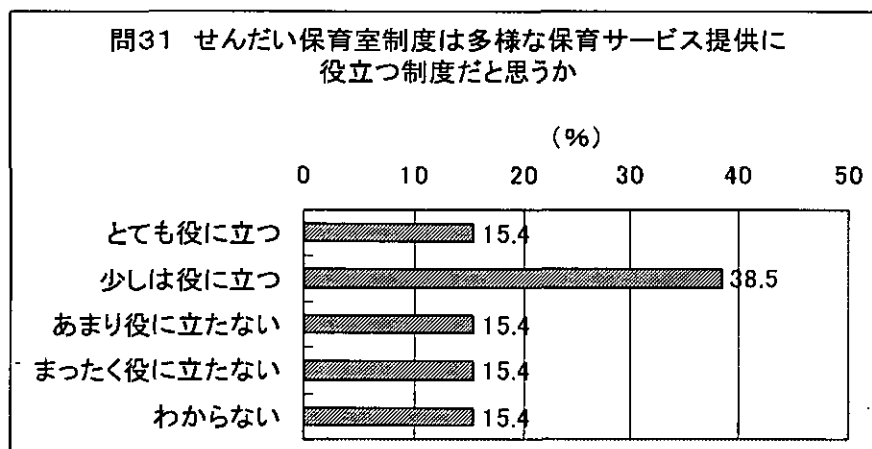


せんだい保育室制度が助成の面で改善されるべき点は何かについてたずねた質問には、「3歳以上児助成の増額」が27.8%、「他市町村児童への助成」が22.2%、「年度始めの欠員対策の助成」が16.7%で割合が高くなっており、各園は3歳以上児、他市町村児童への助成について対策を求めている。また、せんだい保育室になってからも年度始めに転園する児童による年度始めの欠員対策を必要としていることがわかった。



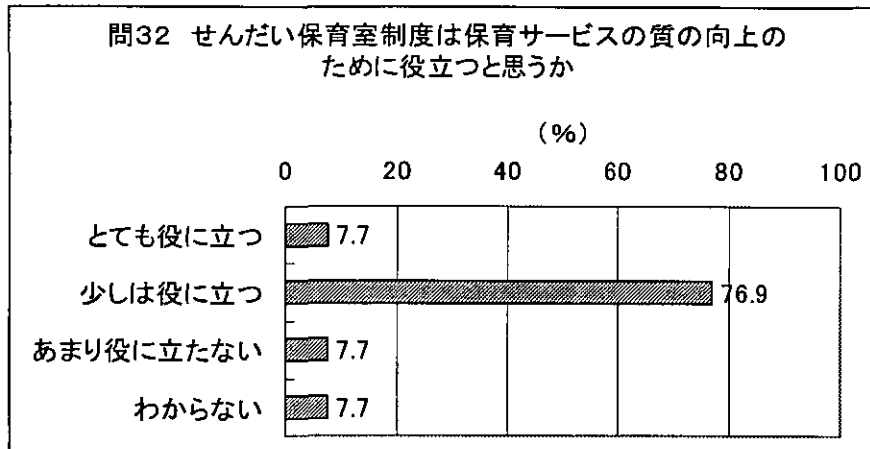
せんだい保育室制度が助成面のほかに改善されるべき点だと思うことは何かについてたずねたところ、「児童の安定的な入園の保障」(29.2%)、「せんだい保育室制度の恒久的存続の保障」(25%)、「助成対象児童の適用の見直し」(16.7%)の順となっている。せんだい保育室への移行が入園児の保障に繋がること、そしてせんだい保育室の存続について恒久的に保障されることを望んでいた。また、他市町村児童、「保育に欠ける子」ではない児童など助成対象外児童が受け入れられるように、助成対象を見直してほしい要望が多かった。

#### IV せんだい保育室制度の評価

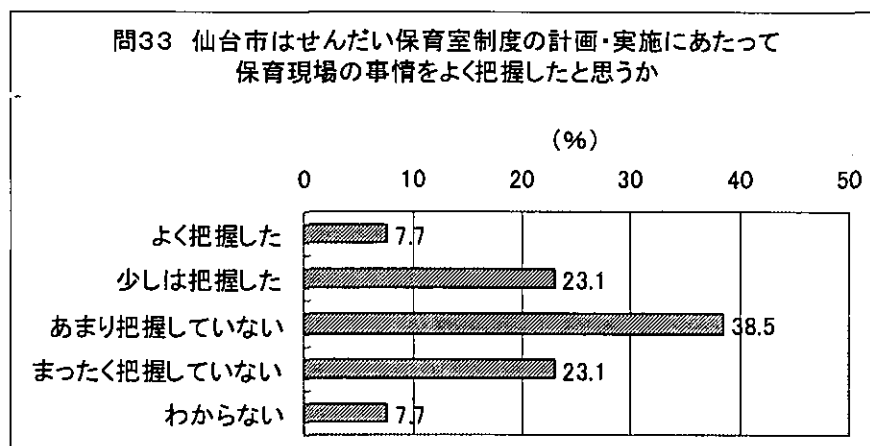


せんだい保育室制度は多様な保育サービス提供に役立つ制度だと思うかどうかについては、「と

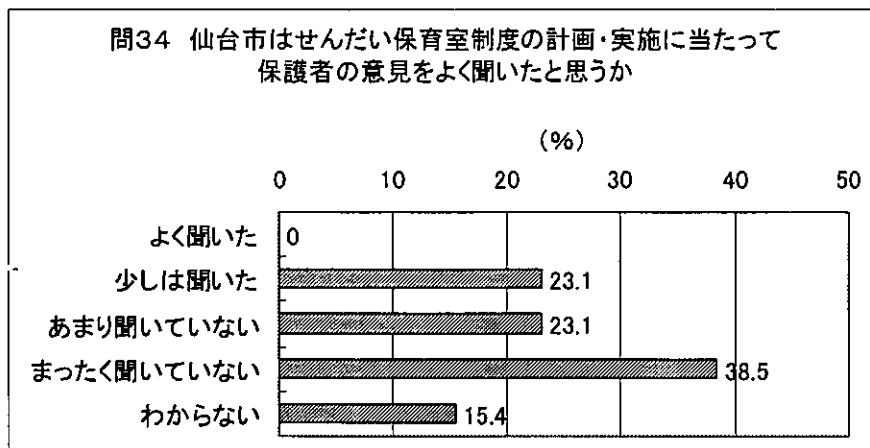
でも役に立つ」(15.4%)「少しは役に立つ」(38.5%)といった肯定的な答え(53.9%)と、「あまり役に立たない」(15.4%)「まったく役に立たない」(15.4%)「わからない」(15.4%)といった不明・否定的な答え(46.2%)とほぼ割合が同じで、せんだい保育室が多様な保育サービス提供に役に立っているかどうかは不透明な結果となっているといえる。



せんだい保育室制度は保育サービスの質の向上のために役立つ制度だと思うかについては「少しは役に立つ」が76.9%で圧倒的に高く、せんだい保育室は保育の質の向上面では役に立っていることがわかった。



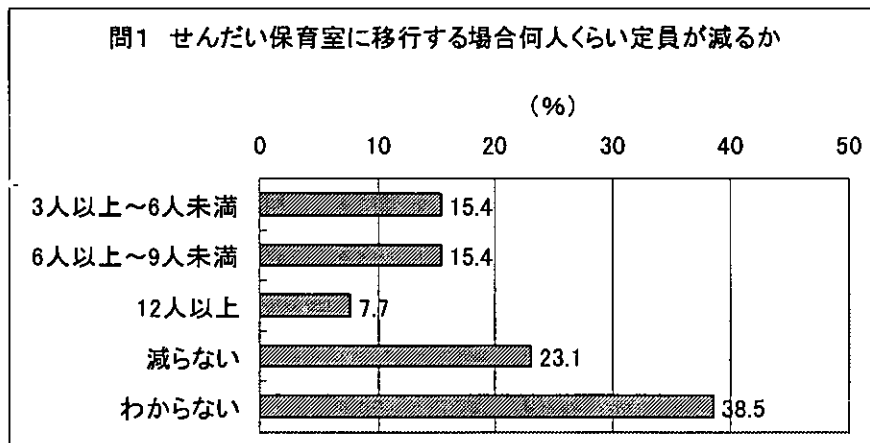
仙台市はせんだい保育室制度の計画・実施にあたって保育現場の事情をよく把握したと思うかについてたずねたところ、「あまり把握していない」が38.5%、「まったく把握していない」が23.1%で、60%以上の園が仙台市は保育現場の事情をあまり把握しないまませんだい保育室制度を実行したと答えた。「よく把握した」と答えた園は7.7%に過ぎなかった。



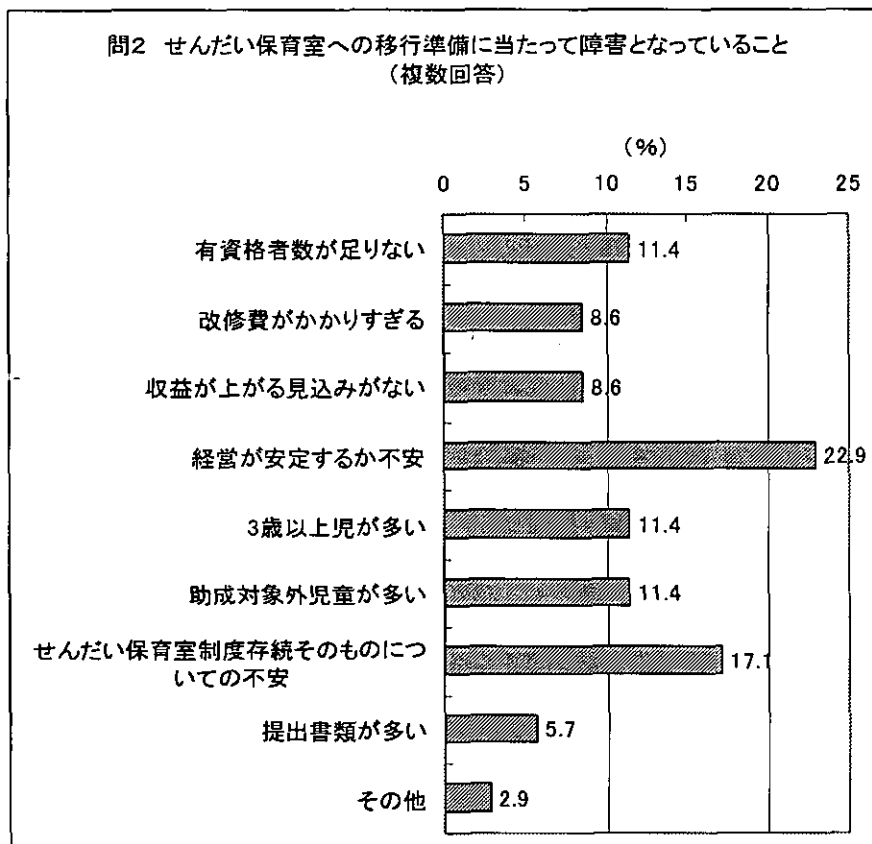
仙台市はせんだい保育室制度の計画・実施に当たって保護者の意見をよく聞いたと思うかについて尋ねたところ、「まったく聞いていない」が38.5%、「あまり聞いていない」「少しは聞いた」がいずれも23.1%、「わからない」が15.4%となっており、仙台市は認可外保育園の保育サービスの利用者である保護者の声をしっかり聞かないまませんだい保育室制度をスタートさせたと答えた。

## 2) 家庭保育室

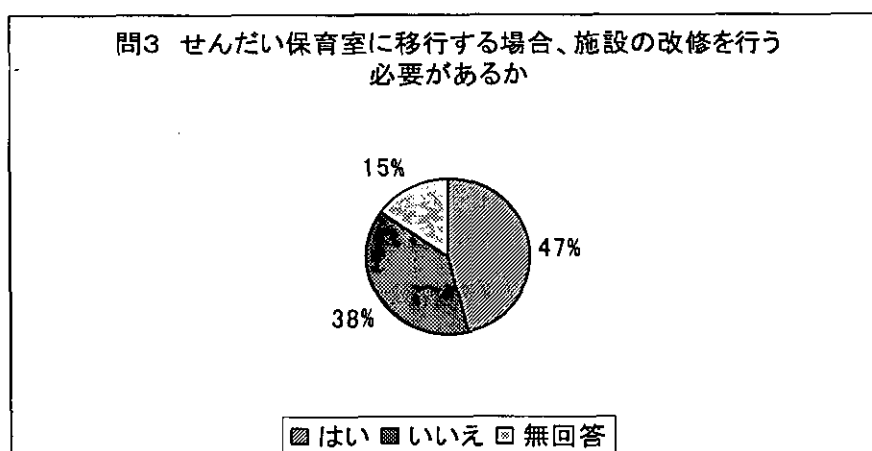
### I せんだい保育室への移行準備のなかで障害となっていること



せんだい保育室に移行する場合何人くらい定員が減るかについてたずねたところ、「わからない」が38.5%で一番多く、まだ仙台市と協議をしていない園が多いことがわかった。その次が「減らない」で23.1%となっている。



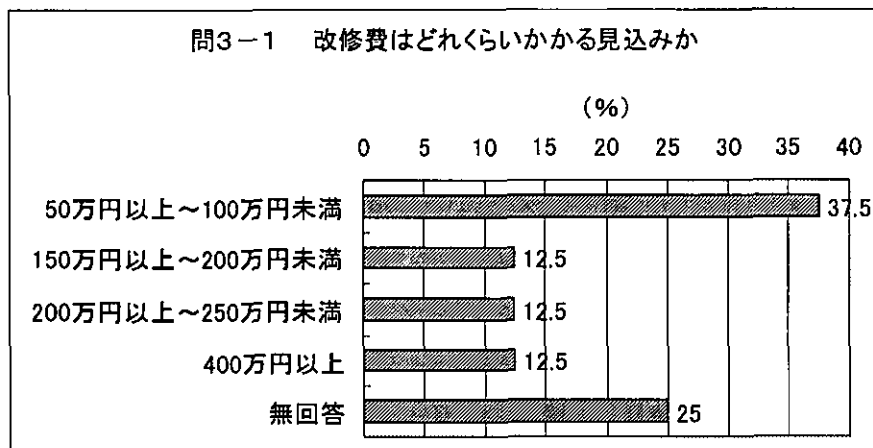
せんだい保育室への移行準備に当たって障害となっていることは何かについての質問には、「経営が安定するか不安」と答えた園が 22.9%で一番多く、「せんだい保育室制度存続そのものについての不安」が 17.1%で次に多かった。「有資格者数が足りない」「3歳以上児が多い」「助成対象外児童が多い」はいずれも 11.4%となっている。



せんだい保育室に移行する場合施設の改修を行う必要があるかたずねたところ、「はい」が 47%、



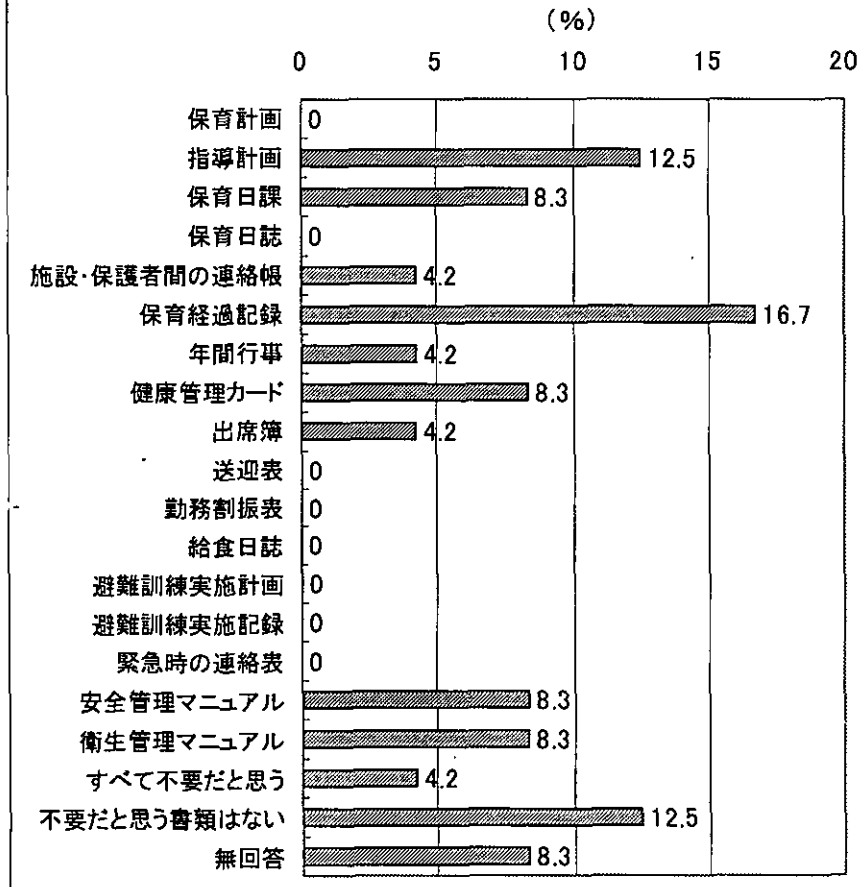
「いいえ」が38%だった。



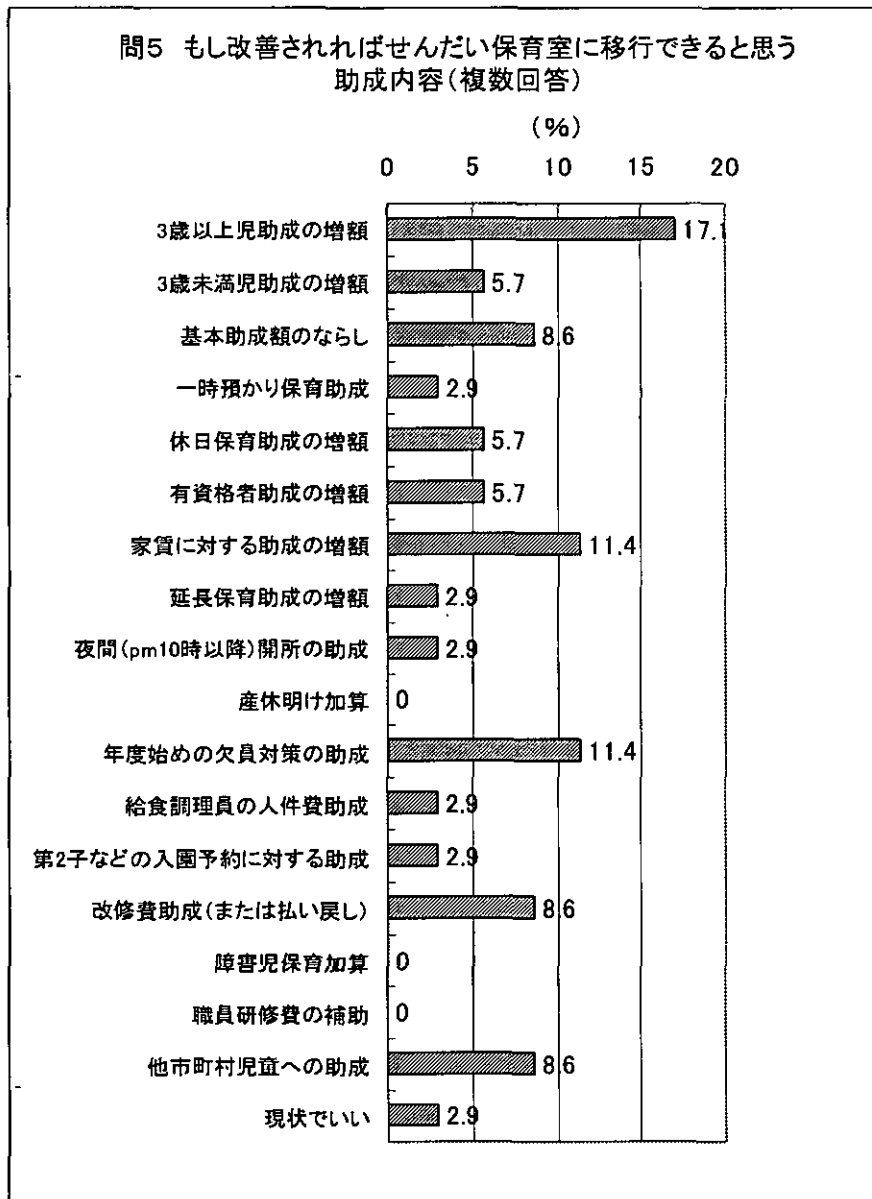
改修を行う必要のある園に、改修費はどれくらいかかる見込みかについてたずねたところ、「50万円以上～100万円未満」と答えた園が一番多く、37.5%を占めていた。

## II. せんだい保育室制度が改善されるべき点

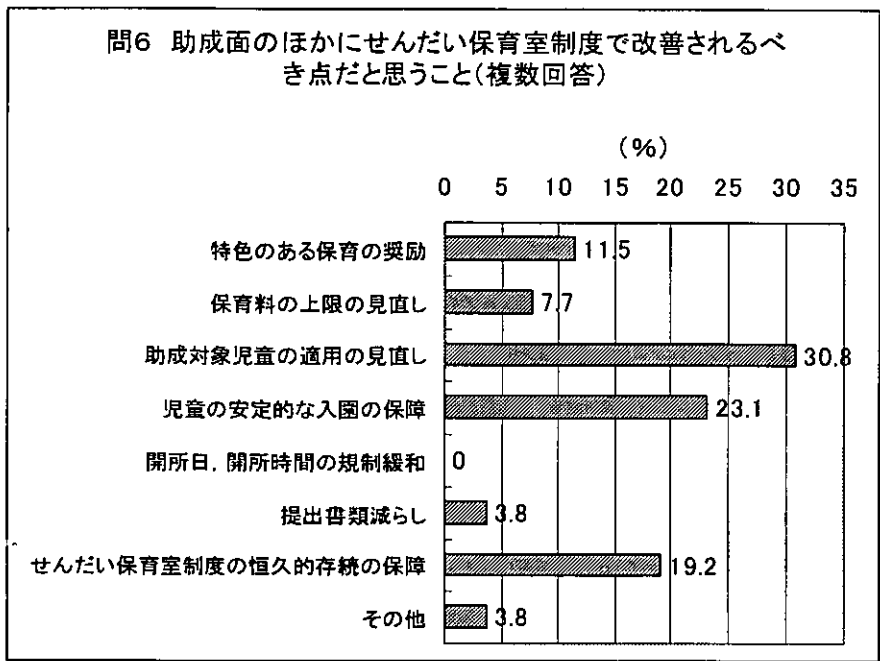
問4 提出書類のなかで不要だと思う書類は何か(複数回答)



市に提出する書類のなかで不要だと思う書類はないかについてたずねたところ、「保育経過記録」と答えた園の割合が一番高く 16.7%だった。

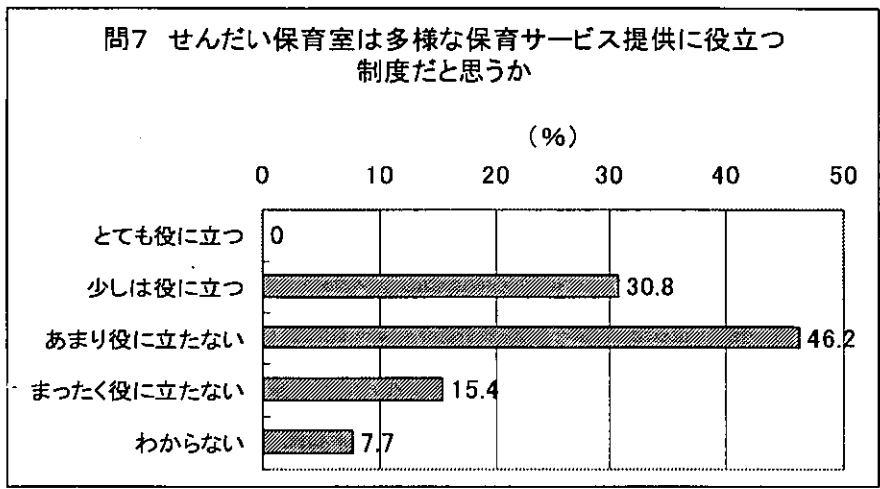


もし改善されればせんだい保育室に移行できると思う助成内容は、「3歳以上児助成の増額」(17.1%)、「家賃に対する助成の増額」・「年度はじめの欠員対策の助成」(11.4%)が多かった。



助成面のほかにせんだい保育室制度で改善されるべき点だと思うことは、「助成対象児童の適用の見直し」が30.8%で一番高く、「児童の安定的な入園の保障」(23.1%)、「せんだい保育室制度の恒久的存続の保障」(19.2%)の順になっている。

### Ⅲ. せんだい保育室制度の評価



せんだい保育室は多様な保育サービス提供に役立つ制度だと思うかという質問には、「あまり役に立たない」(46.2%)と考える園が一番多く、「まったく役に立たない」(15.4%)の割合をあわせて61.6%が否定的な見解を示した。「とても役に立つ」と考える園は0だった。